

静岡新聞

平成28年(2016年)12月3日(土曜日)

三島駅南口ホテルに東急

20年春開業目標 東京五輪照準

三島市が三島駅南口西街区で計画するホテル建設に、東京急行電鉄(東京)が進出することが2日までに分かった。インバウンド(訪日旅行者)の増加が見込める東京五輪を照準に2020年春の開業を目指す。

(三島支局・河村英之)

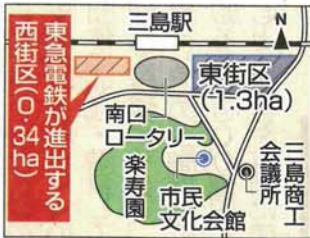
三島駅南口の土地開発は20年近くにわたり方針が決まらず、事実上の塩漬け状態が続いていた。建設予定のホテルは食事や情報発信機能を併せ持たせることを条件に市が事業者を公募し、伊豆半島の

玄関口として観光交流拠点の役割も期待される。ロータリーを挟んだ東街区でも高層マンションを軸とした別の再開発計画が進行している。

ホテル予定地の面積は0・34畧で、東急電鉄が市土地開発公社から購入した上で施設を整備する。公募に際し市が公表していた最低売却価格は4億804

2万9310円。関係者によると、施設は客室が200室規模で、ツインルームを主体としたシテイホテル型になるとみられる。

西街区の土地は1997年に市土地開発公社が国鉄清算事業団から買い取った。市は近隣の民地を含めた再開発を目指したが地権者と合意形成に至らず、今年5月、公有地のみを民間に売却する方針に切り替えた。



東急電鉄は2日までに三島市で行われた事業提案で、三島駅南口へのホテル建設を機に、自社施設を活用し三島市人を呼び込む情報発信

を都内で積極的に展開する考えを示したという。渋谷駅前スクランブル交差点に立地する商業ビルの大型スクリーンから映像を流す案

などが提示されたといわれる。同スクランブル交差点は通行人の数が1日に数十万人に上るとされ、外国人の観光沿線での情報発信も

提案したという。東急電鉄は「QFRONT」(キューフロント)の活用策を示唆し、東急沿線での情報発信も提案したという。

渋谷で三島PR 東急が事業提案か